田舍源氏貳拾

へ13
3742
20

天保七年丙申春新彫

偐紫田舎源氏

安年十八編より九二編まで閑抜おかるとうずまり矣覽と程奉あり

柳亭種彦作
歌川國貞画

一筋道雪眺望

笠亭仙果作
全四冊
歌川國芳画

井筒屋の藐子八百屋乃娘 紫房紋多箱

仙客亭柏琳作
全六冊
歌川貞秀画

糸柳花縁結

笠亭仙果作
全四冊
歌川貞秀画

櫛久の十徳 茂伊の紙子 世話家木

笠亭仙果作
全四冊
歌川貞秀画

種彦校合

御名所そび袋入
わ淦ざらう〜
種彦作 貞秀画

昔新そちちんそく 三冊

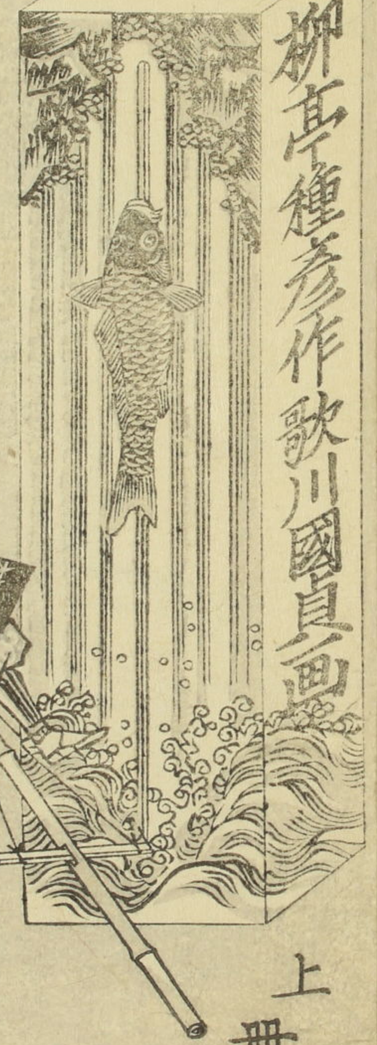
むう〜語火くさぐ〜 二冊

むう〜語浦島ぐい 三冊

茶番のいろは 二冊

書物地本錦繪問丸 通油町 仙鶴堂鶴屋喜右衛門

天保丙申孟春發行



上冊

偐紫田舎源氏

第二十編

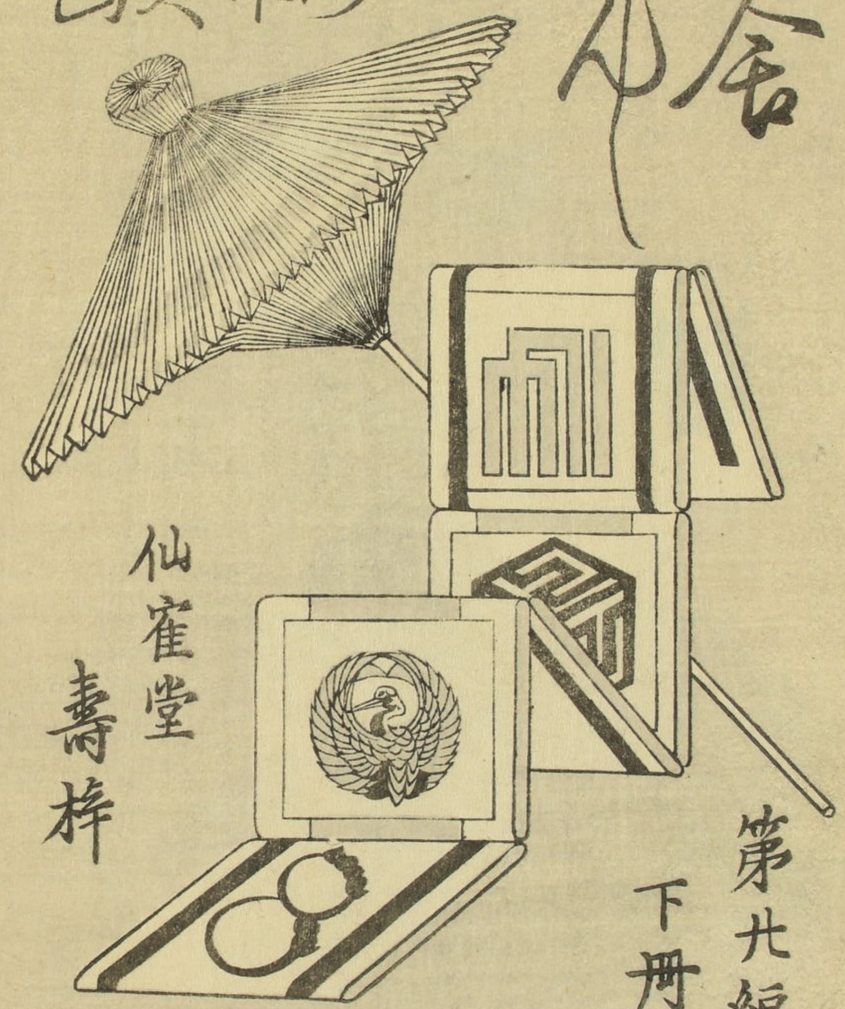
東都 通油町 鶴屋 喜右衛門 版

傾城
吉中
原
氏
二十編上
種彦
作
四
貞画
二十編下
鶴彦
梓

門へ13
號3742
巻20

田舎侍

柳亭種彦作
国貞画



仙雀堂
壽梓

第九編
下冊

偐紫田舎源氏第二十編 叙

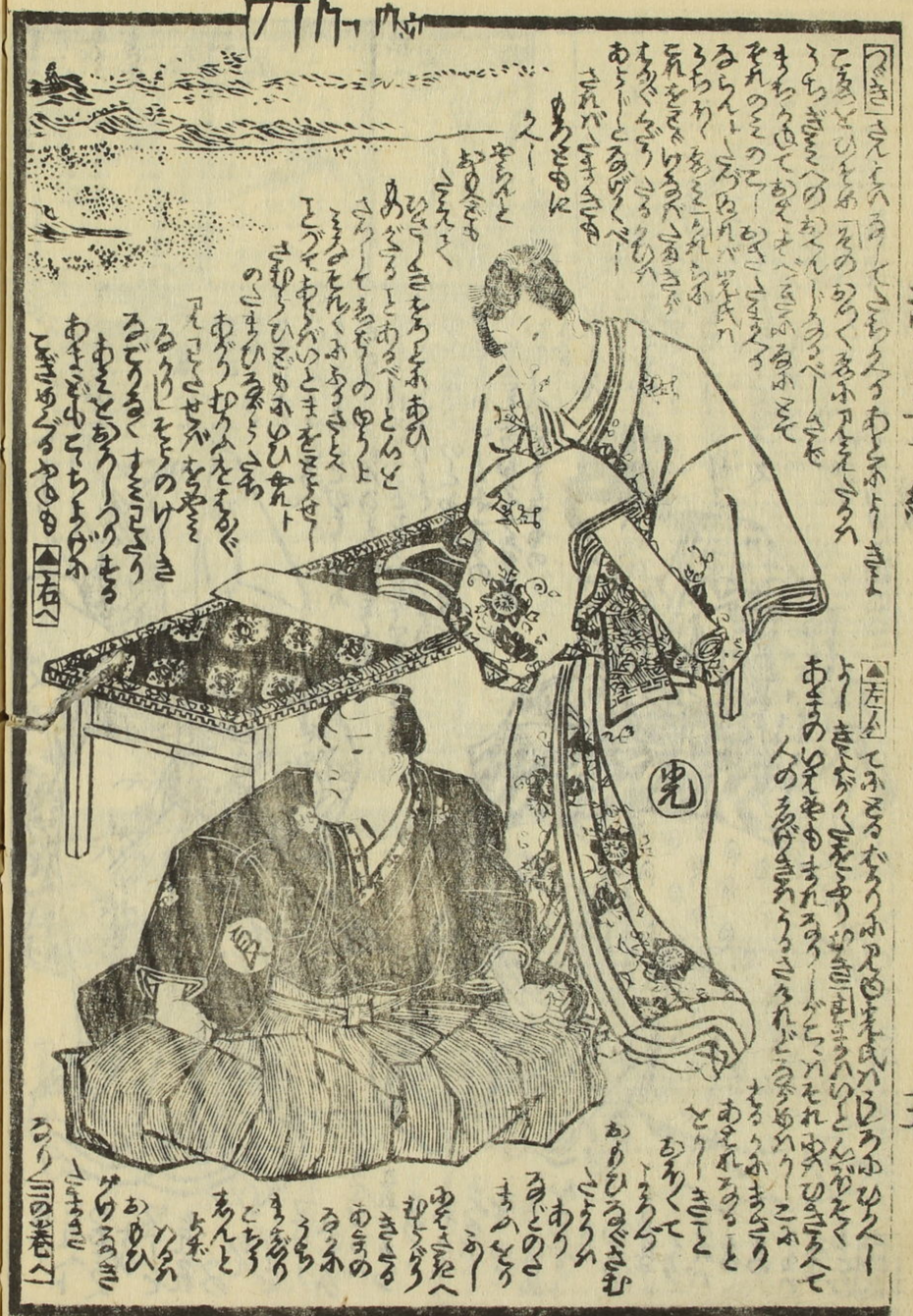
忠臣藏の五段目八猪ふあそれて定九郎が逃あむとさんよ鉄炮の
音ぢりで幕とる〜。ちゃ勘平ちゃまりしのかたあるつが引まを定九郎が
[illegible]報向よあり〜うど腹切が重ゐりて見物の涙ぢめいるが
[illegible]恩の報と自殺にあちちくこそ見せ〜とさん。須ヶ川石も張冊ふ
[illegible]れもと眼をのめさを事。ちゃ〜是ハうぬと巳の日の桜果ハ我ゐよかる
[illegible]ぬ〜山伏の祈りの段の冷ふ移り。打通りぬべく鉄炮雨
[illegible]震動電。あそやと見送る白ふぶふもぬりかくて死ぬる八
[illegible]鉄炮死よ仰ぐさらんと彼定の幕が例ふよりて人を飽せ〜と又此編も
自巻が早うち筆へ事地のくるりもるく迫づく業の門神樂
獅子ちゃう先へいつさんよ賣出〜と急がれて最金筆よ移を脱せ
[illegible]ぶくまやぶの波〜場を左りくろてる場を
ようこ切りさろそくおれまうもべき彩色ゐ

柳亭種彦記

宗入の愛玉
朝霧

くきのあて
ひまの
くもの
おりひ
ゆも
今ん
ひ
ふる
ふる
ぶよ
せ

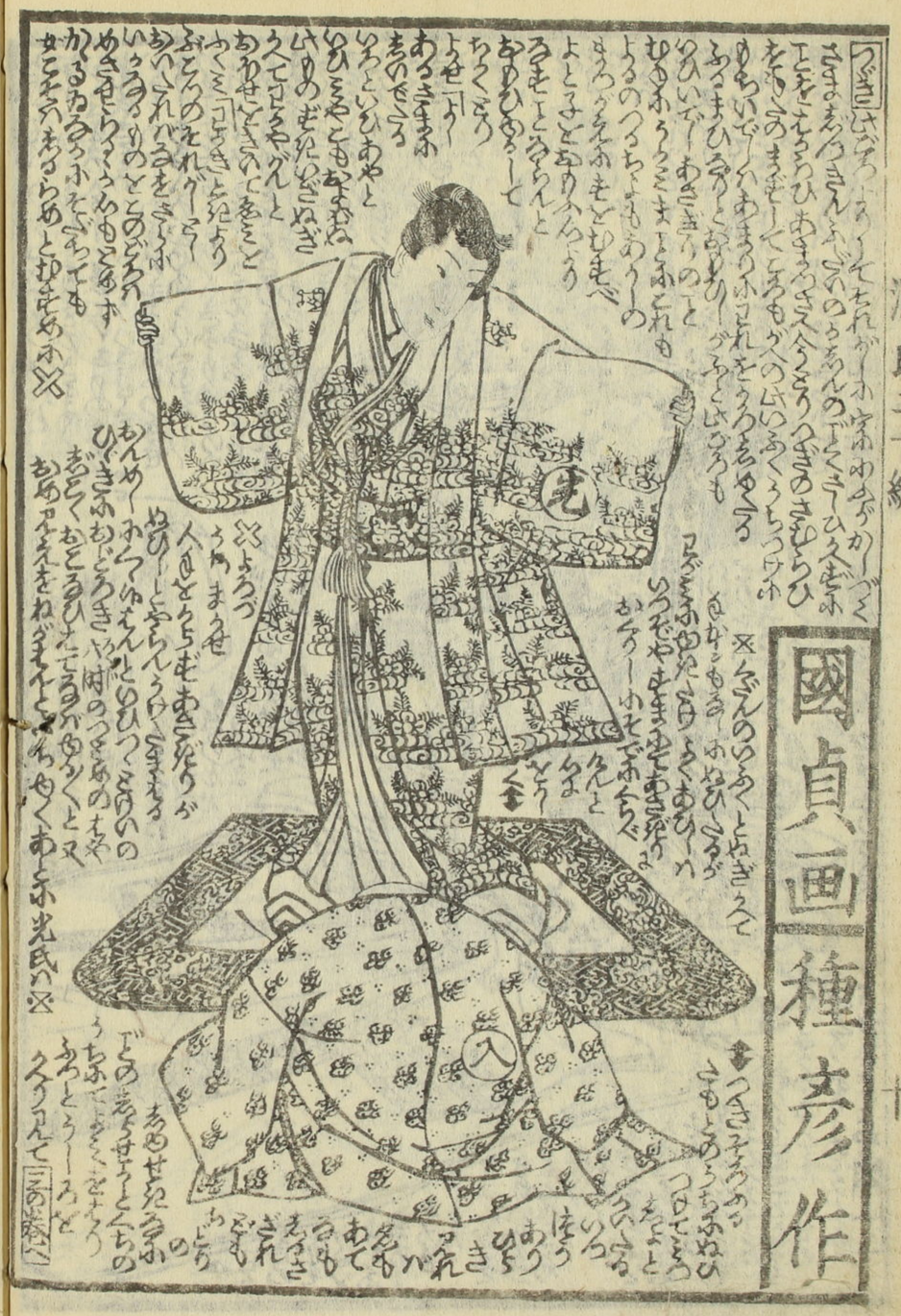
朝霧
侍の女
千鳥

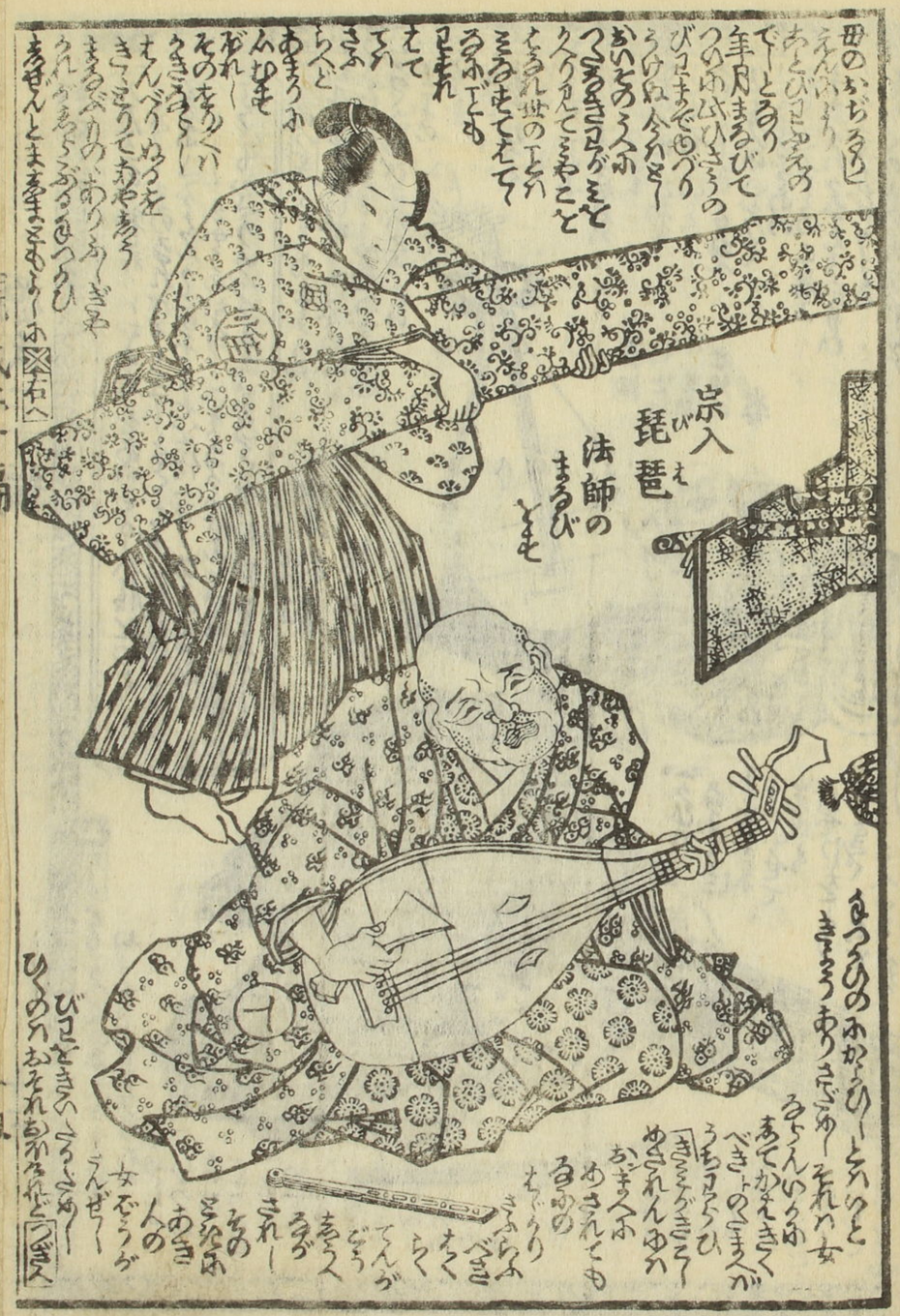


宗入さんまう堂ゆく
光氏と囲碁を

宗入が
まゐれ舘
と
岡辺の
宿

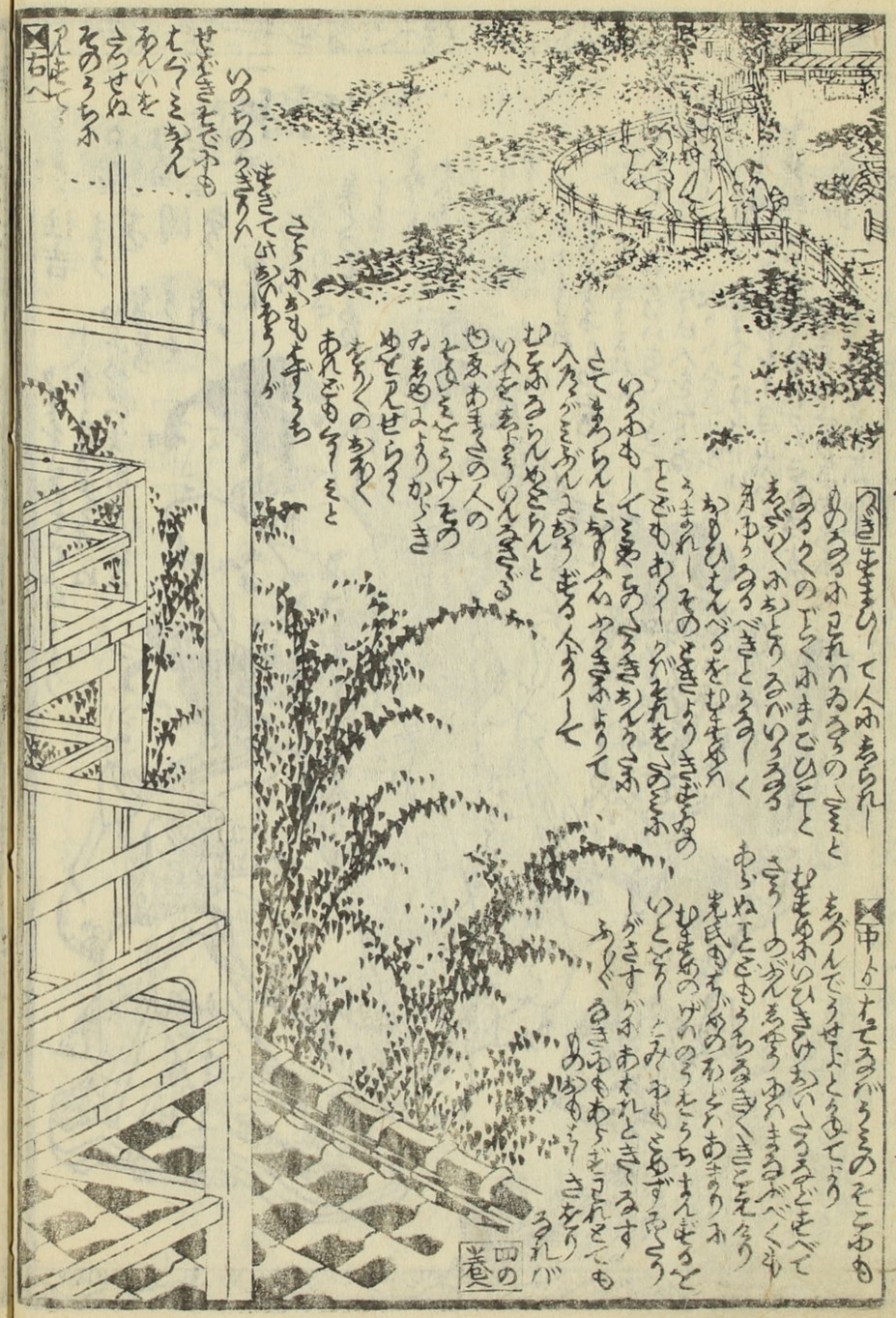
國貞画種彦作

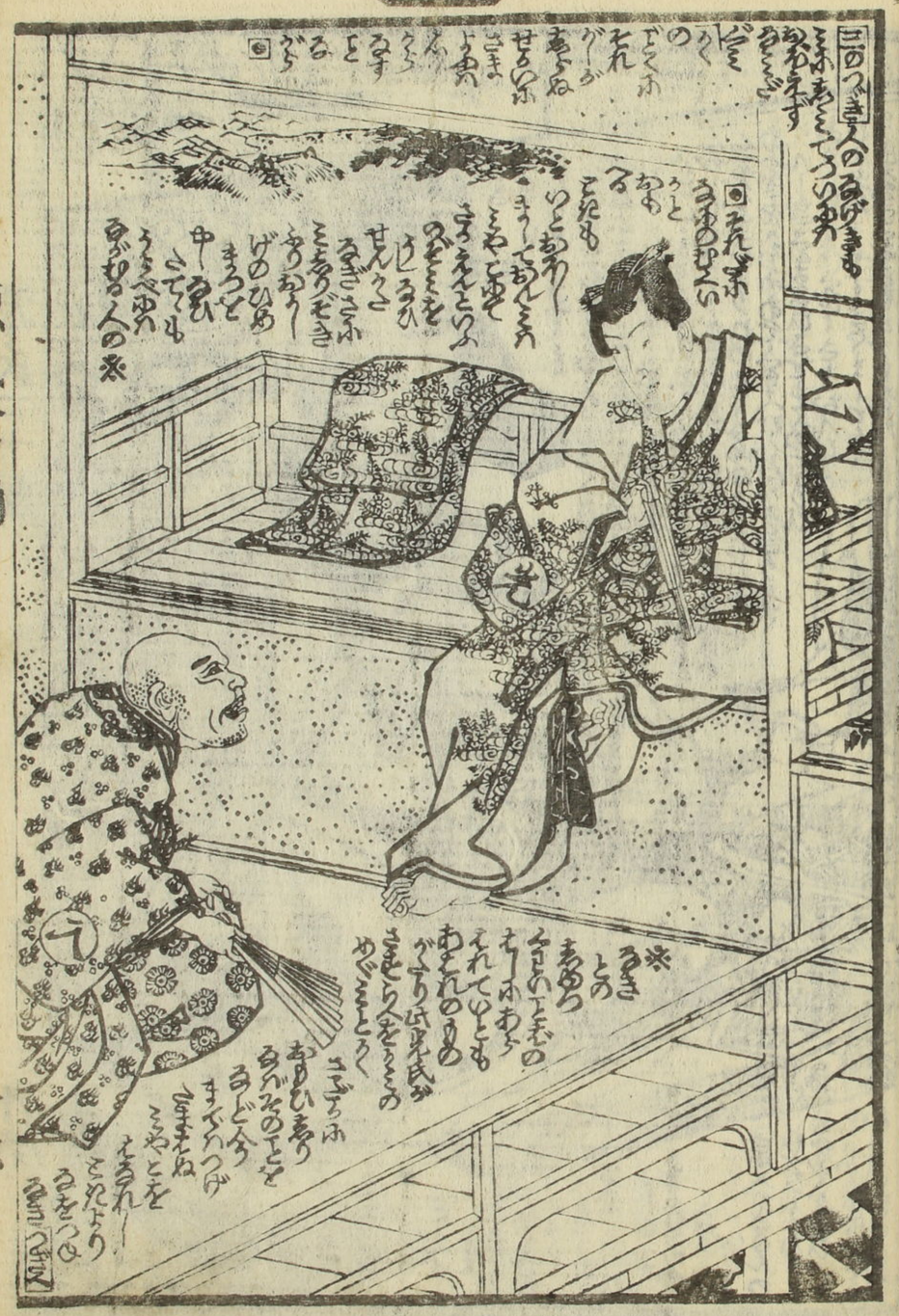


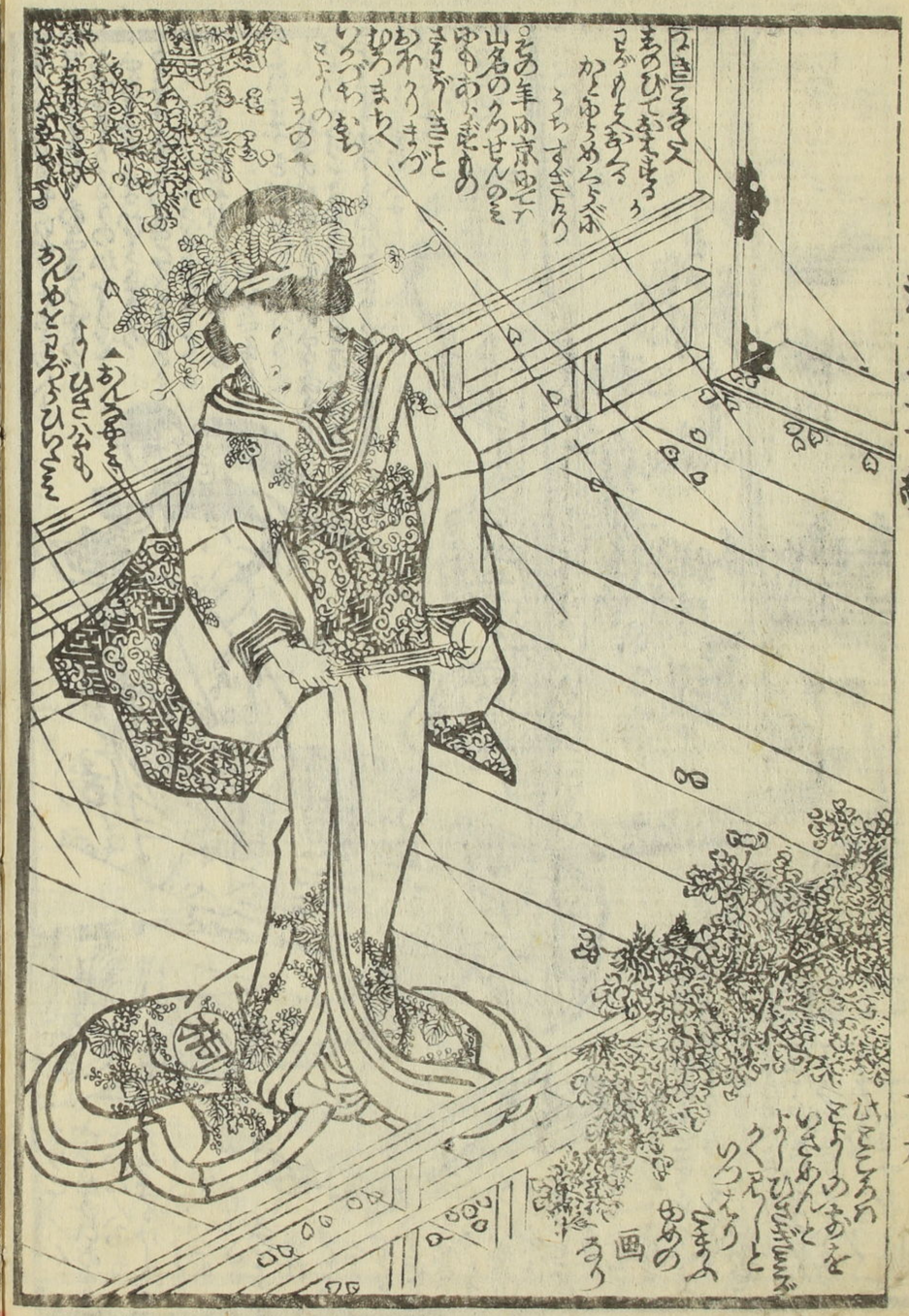

宗入
琵琶
法師の
まるびと

○山名持姿
後ニ宗入
○花桐
いとけなきころの姿
▲左
▲右

○知義の妻後ニ嵯峨の後室とす是也
○間嶋知義
▲右
▲左







天保七年中春新彫

琴声女房形氣　全四冊　山東京山作　歌川國貞画

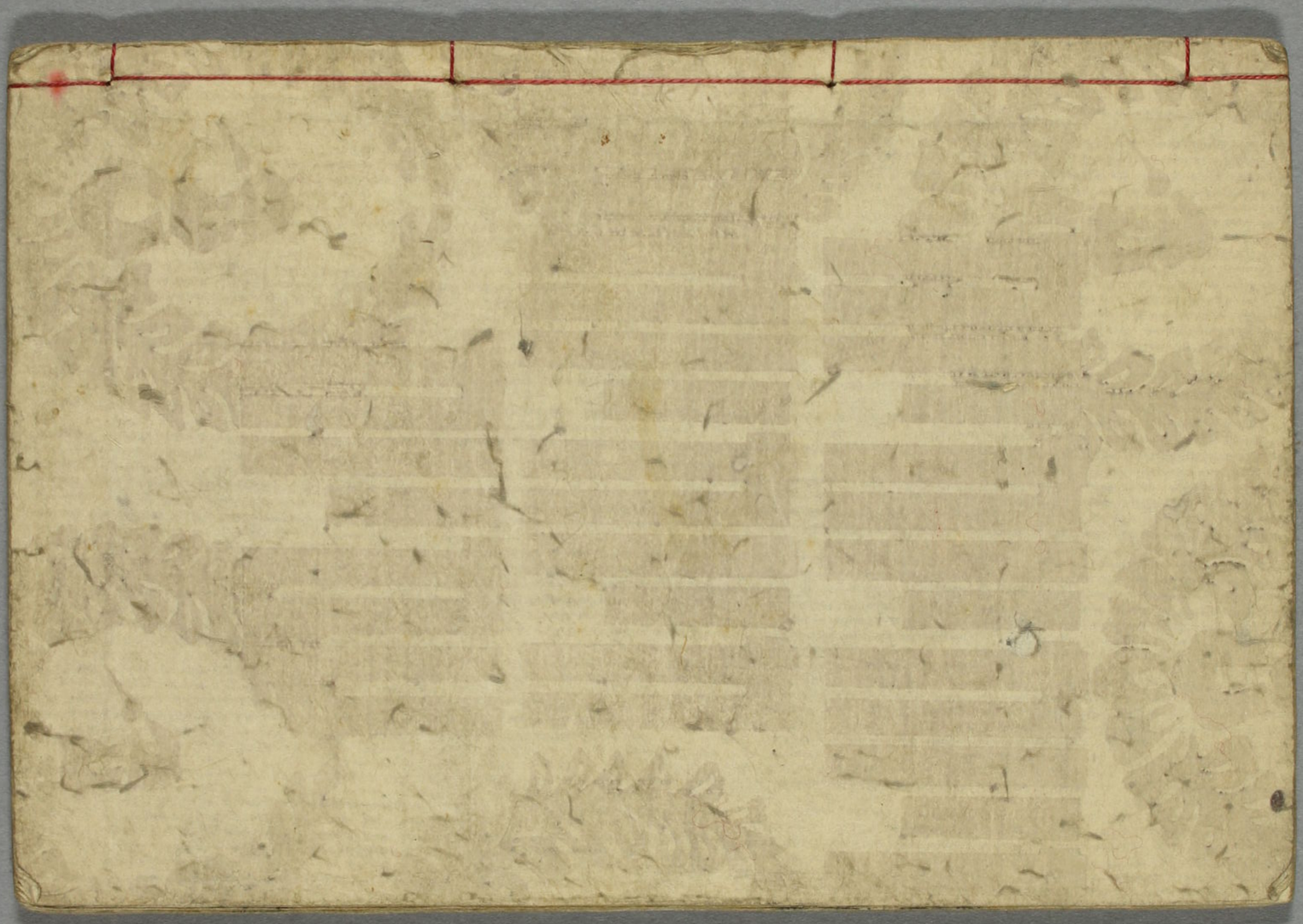
森羅萬象心意氣　全四冊　関亭傳笑作　五柳亭徳孝作　歌川國芳画

浮波さとり　八冊　柳亭種彦作　歌川貞秀画

烏勘左衛門忠義傳　全四冊　宝田千町作　歌川國芳画

稲葉山操の松枝　全四冊　歌川國芳画

國字水滸傳　十四編　四冊　笠亭仙果譯　歌川國芳画

御かれの茶もりの
美艶仙女香　四十八粉　南伝馬町三丁目西側　坂本氏製
黒油美玄香　四十八粉　原次　薬屋吉左衛門

書物錦繪
團扇地紙　江戸通油町　鶴屋喜右衛門